令和3年度　学校評価総括表　　伊丹市立笹原中学校

学校教育目標	予測不能な未来を自立して生き抜く知･徳･体バランスのとれた人間力ある生徒の育成
重点目標	（1）受容と共感に基づいた生徒理解を基盤に、規律ある学校生活のもと、確かな学力を育む （2）全教育課程を通して高い道徳性と人権意識を育み、保護者と地域との連携のもとで、ともに支え合う仲間づくりを行う

項目		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
安全・安心な学校（総務部）	教育課程	･学校教育目標の実現に向け、全教員が学校運営に参画する。 ･学校の現状や生徒の実態を踏まえた教育課程を編成する。	･学校行事を充実させるため、事前学習や事後学習の時間を確保する。 ･「笹トレ」や定期テスト前の放課後学習、3年生の7校時学習の実施により授業時数を確保するとともに、地域と連携した土曜学習の実施により学力を保障する。	アンケート結果の「A」「B」評価の割合の合計が90%以上になる。	B	･新型コロナウィルス感染症の対策をしながら、校長の方針のもと教職員の共通理解を図り、学校教育目標の実現に取り組んだ。学校全体での行事ができない中ではあったが、各学年で取り組み学年行事を充実させることができた。その結果、学校へ行くのが楽しいとする生徒アンケートの「A」「B」評価が86.1%、保護者アンケートの「A」「B」評価が87.8%とどちらも前年度と同程度であり、目標を達成することができた。また、校長の教育方針は明確であるという、教員アンケートの結果は88.3%と前年度より13.3%大きく上昇している。しかし、90%以上という目標には少し及ばなかった。今後も学校生活、学校行事等で生徒が達成感を持つことができるような工夫を進めるとともに、さらなる向上を目指して、生徒の自主性や主体性を伸ばす取り組みを進めていく。	･「笹トレ」については、問題の改良、取り組み等に工夫を重ね今後も継続する。学年を越えて教え合い、学び合うことで学びを確実なものにするとともに、問題が解ける楽しさを味わいながら自尊感情を育てていく。 ･学校行事については、新型コロナウィルス感染症の対策をしながら、可能な限り実施し、生徒が達成感を得て、次の行事や翌年につながる取り組みを行う。 ･行事への積極的な参加に関する生徒アンケートの「A」「B」評価が3.8%増加している。昨年度より行事に取り組む機会が増え、生徒が主体的に取り組むことができたと思われる。今後も、感染症対策を行いながら、様々な行事を可能な限り実施するために、達成感を味わえるような取り組みを増やしていく必要がある。	･コロナ禍でも86.1%の生徒が学校に行くのが楽しいと思っている。今後も生徒が楽しいと思える行事の継続を望む。まさしくwithコロナ。先生方の努力の賜。 ･学年ごとの体育大会など違うやり方でも生徒本位となるなら今後もその方向で継続をしてほしい。 ･管理職のリーダーシップのもと、学校行事を工夫して実行している。 ･「笹トレ」に関しては、改良しながら今後も継続してほしい。生徒が自信をつけているのがよく分かる。小学校でも見習いたい。 ･自転車マナーが悪く、交通事故も多いので、自転車安全教室など意識を高める取組で、10.8%上昇したことはすばらしい。命を大切にする教育も大切にしてほしい。 ･防災教育は地域と連携協力ができることと、中学生がどんな役割ができるのかを考えさせてほしい。 ･SNS等でのトラブルが増えているので外部から講師を招いて講演会を行い、家庭でのルールの作り方などをふくめ、保護者が一緒に受講する機会を設定してほしい。
	危機管理の徹底	･自転車交通安全教室や防災訓練を通して安全に生活する事や自分の命を自分で守ろうとする意識を高める取り組みを行う。 ･災害や犯罪から身を守るすべについて、具体的に学習する場を設ける。	･自転車交通安全教室を発達段階に応じて内容を吟味して実施する。 ･年2回の防災訓練に向けた事前学習の徹底を図り、防災意識の高揚を図る。 ･防災や安全に関する情報を随時活用し、実生活とのつながりを意識させるような学習を企画する。 ･インターネットの安全な利用法や情報モラルについては、生徒の実態を踏まえ、関係機関との協力のもと、適切な内容の講習会を実施する。 ･実態に即した防災マニュアルの見直しと作成を行う。	･アンケート結果において、「A」「B」評価の割合が80%以上になる。 ･年2回避難訓練を実施する。 ･講話や講習などを年3回以上実施する。	A	･新型コロナウイルス感染対策のため、全校生徒が集まって講演会などを行うことはできなかったが、防災学習や防災訓練などを通して、災害や不審者から身を守る方法について考えることができた。また、長期休暇前後や道徳など、定期的に命の大切さについて考える時間をつくることができた。さらに、1年生対象の自転車安全教室も実施することができた。その結果、生徒のアンケートでは前年度83.8%だったものが、今年度94.6%と、10.8ポイント上昇した。 ･ウイルス対策やコロナ差別などにも触れつつ防災教育を行った結果、教職員アンケートでは肯定的意見はどの項目も20ポイントほど上昇した。 ･防災訓練や学習を行うことはできたが、一方で、地域との連携においては課題が残る。いざという時のために、地域と協力して防災に取り組めるようにしていく必要がある。	･前年度に提示した以下の改善策については、今年度行ってきた生徒へのきめ細やかな対応を続けつつ、万全なウイルス対策をしながら実施していきたい。 ･自転車交通安全教室を行うことで、自転車に関する知識を身につけさせる。 ･防災意識の高揚を図るために、防災訓練や防災学習の内容の充実を図る。また、防災学習については、授業の中で活用できる教材を整備していく。 ･防災や安全に関する情報を収集し、実生活とのつながりを意識させた学習を企画する。 ･防災学習や訓練に地域の方にも参加、協力してもらう。 ･防災マニュアルの徹底を教職員全体に通して行う。 ･生徒の実態を踏まえ、スマホの使い方やインターネットなどの安全な利用方法や情報モラルについての講習会を関係機関の協力のもと実施する。	

学力の向上（教育・研究部）	評価・情報システム	・様々な方法で評価資料を収集し、生徒の学力や学習の達成度の評価を適切に行う。 ・デジタル機器を活用し、生徒の興味・関心を高め、意欲的に学習に取り組めるように教材を工夫し、わかりやすい授業に努める。	・生徒、保護者が納得できるような基準を設定し、シラバスで示す。また、評価資料を収集し、生徒の意欲を高める評価に努める。 ・ICTの活用を推進し、その状況が保護者に伝わるよう、授業参観やHP等でアピールしていく。 ・さらなるICT化の推進を目指し、タブレット型端末の活用やオンライン授業の取組等を進めていく。	・アンケート結果において「A」「B」評価の割合が90%以上になる。 ・教職員のアンケート結果においては「A」「B」評価の割合が100%になる。	A	・教師のアンケート結果より、7, 8, 10が100%という結果が得られた。ICTを積極的に取り入れつつ、評価資料の収集をしっかりと行うことができたと考えられる。その成果もあり、生徒、保護者共に90%以上という、概ね高い評価を得ることができている。 ・教職員の「情報機器の適正管理、情報セキュリティポリシーに基づき情報モラルを順守している」については、昨年度と同じ87.5%という結果だった。ICT等を積極的に取り入れているからこそ、情報モラルの順守についても100%を達成目標とする必要がある。	・生徒、保護者向けに新学習指導要領にのっとった、評価基準をしっかりと提示し、評価方法や評価資料の徹底をはかり、説明責任が果たせるようにする。 ・一人一台のタブレット端末を効果的に活用する方法を検討する。 ・生徒も授業の中などで、日常的にタブレットを使用するようになっているからこそ、情報機器の適切な使用法について、指導をしていく。（スマホ講演会など） ・オンライン授業の実施について推進していく	・ICTの活用については先生方が自信をもって取り入れられている努力の賜です。今後も推進してほしいし、わかりやすい授業に活かしてほしい。 ・一方で情報モラルの指導も一層取り組んでほしい。また、オンライン授業での個人差（家庭環境の差）が課題となるので、対策が必要だと思う。 ・「めあて」の教員評価が下がっているのは気になる。生徒評価とのギャップの原因を考えてほしい。 ・教員の評価が上がることで、生徒にも明確なめあての意識が生まれるはず。 ・「振り返り」は、小学校でも課題の1つ。自分を知るためには、授業での個々の学びを言語化させることや視覚化させることが必要。自分の意見が言えていないのも同じでは？ ・生徒への評価は肯定的な評価、意欲が高まるような評価・コメントをお願いしたい。 また、わかりやすい授業を目指し、一人ひとりと向き合ってほしい。 ・家庭学習は、それぞれの家庭環境が違うので難しい面はあるが、習慣化も含めて、自ら課題を見つけて主体的に取り組めるシステムができるといいですね。
	指導方法の工夫改善	・生徒の興味・関心を高め、意欲的に学習に取り組めるようにする。 ・教材や指導法などを工夫し、わかりやすい授業づくりに努める。 ・チーム学習・話し合い活動や発表を積極的に授業の中で取り入れ、学びの共同体づくりに努める。	・単元の中にプロジェクト型学習を取り入れた、授業づくりを行う。 ・効果的なサクセスシートを全学年実施する。 ・効果的なめあてを検討するための研修会や強化週間を設定する。 ・コロナ渦の中、ICT機器を効果的に活用（スクールタクトなど）し、意見を共有しあえる環境づくりを図る。 ・笹トレを活用し、教え合いの基盤を定着させる。また、各教科の授業の中で効果的に笹トレのノウハウを取り入れる。	・アンケート結果において「A」「B」評価の割合が90%以上になる。	B	・めあての提示に関するアンケート結果は肯定評価が90%を超えている。しかし、生徒のアンケートではA評価が74%と、昨年度(85%)より下がっている上に、教員も67%と、昨年同様である。このことから「めあて」の提示は行っているものの、教員自身が効果的にめあてを提示できていない状況にあると考えているという実態がうかがえる。 ・振り返り活動に関するアンケート結果では生徒の92%が肯定的な評価をしている。しかし、A評価をつけた生徒は41%と低いため、効果的な振り返り活動ができていないように思われる。 ・話し合いの場で意見を言えたかという項目は肯定的評価が昨年度67%であったが、今年度は60%と少し減少している。授業が「講義形式」ばかりになってしまっていないか、などの改善を要する数値となっている。	・めあてに関しては全教員で効果的なめあてとは何かを考える機会を設ける。また、現状めあてを1つ書くこととなっているが、プロジェクト型学習に向かうためのめあて（プロジェクト終了までかわらない）とその授業でのめあての2つを提示するようにする。 ・サクセスシート（ふりかえりシート）については、授業評価アンケートにて調査を行った。生徒自身が効果的に感じていないという意見が多かったので、型式等を検討して、効果的なものにしていけるよう、見直していく必要がある。 ・プロジェクト型学習を進めていく中で、できることや効果的だったことを教科を横断しながら共有していく必要がある。	
	家庭学習の充実	・各教科より進度や理解度に対応した課題を出すことで、家庭学習の習慣化および充実を図る。 ・授業内容の確認や学力向上の成果が見られる課題を作成する。	・家庭内で学習する環境に課題がある場合は、放課後学習や土曜学習などを通して、学校で学習時間を確保し、自主学習の習慣化を図る。 ・生徒が意欲的に取り組み、率先して提出しようと思える課題にするために、提出後の点検をスムーズに行い、次の学習への意欲が高められるような、励みになるコメントや間違いの訂正、疑問点への回答など個別の指導に努める。 ・単元テストの充実を図るとともに、生徒自ら課題を発見して、家庭で取り組めるような学習のシステムを構築する。	・アンケート結果において、「A」「B」評価の割合が80%以上になる。	A	・生徒、保護者、教師の家庭学習に関するアンケート結果は肯定的評価が80%を超えている。 ・サクセスシートを家庭学習で生かせる教科とそうでない教科があった。 ・各教科で週末課題や週間課題を設定したり、工夫されたノートを掲示したりするなどの取り組みが好評価につながっていると考えられるが、昨年より約5%減少した。 ・家庭学習の習慣化について各家庭ごとに差が大きい実態と、宿題を家庭ではなく学校で取り組んでいる生徒たちが多いという実態がうかがえる。 ・いくつかの教科で、「みんなの学習クラブ」を用いて、生徒自ら課題を見つけて取り組む家庭学習のシステムを実施し始めており、今後の学習意欲の向上につながる可能性がある。	・高評価につながっている取り組みを今後も継続しておこなっていく。 ・サクセスシートについては、研推とリンクして効率のよい利活用の方法を徹底を図る。 ・家庭学習の習慣が身についていない生徒を中心に、タブレット等を活用しながら保護者とも連携し、生徒の自主学習力の向上を図る。 ・学級担任と教科担任がこまめに連絡を取り合い、課題未提出者の把握につとめ、課題提出の徹底を図る。 ・各教科で課題を出す際に提出締切を明らかにするとともに、学級の連絡ボードを活用し、徹底を図る。生徒が課題を提出日締切当日に学校で慌てて取り組んでいる様子があれば声かけをし、事前に取り組むよう促す。 ・単元テストの位置づけを明確にする。 ・生徒が主体的に家庭学習に取り組めるようなシステムの構築を図る。	

学力の向上（教育・研究部）	特別支援教育の推進	・特別支援学級だけでなく、通常学級の生徒に対しても個別の指導計画を作成し、適切なサポート体制を強化する。 ・特別支援教育推進委員会や学年会議などで生徒の情報を共有するともに日常的に支援員の方とも連携をはかる。	・個別の指導計画の内容を全職員で共通理解する。そのために、学年会で個別の指導計画の検討を行い共有化を図った後に、特別支援教育推進委員会で検討する形式にする。 ・年度当初に学年で配慮が必要な生徒、個別の支援が必要な生徒の共通理解を図り、学年内での共通理解を図り、学期ごとに見直す形式にする。 ・毎週木曜日に行う特別支援教育推進委員会で各学年の配慮が必要な生徒、個別の支援が必要な生徒についての情報共有を行うための生徒情報入力ファイルを作成し、学年で週1回該当生徒についての情報交換を行う。	・アンケート結果において、「A」「B」評価の割合が80%以上になる。	B	・サポートファイルを同じロッカーで管理し、全校で誰もが指導計画を把握できるようになった。 ・学年会で個別の支援が必要な生徒や個別の支援が必要な生徒の共通理解を図ったことで学年間での情報共有がスムーズに行われるようになった。また、支援学級の生徒情報も併せて学年内で共有化されるようになった。 ・通級指導を開始した生徒が増え、個に応じた指導が充実した。 ・学習支援員のサポートにより放課後学習や個別指導が始まり、学習に対する意欲が向上した生徒が多くなった。	・アンケートでは、前年度よりも「A」「B」評価は増加したが、特別支援教育の組織的な対応の「A」評価がつかなかった。改善の兆しはあるものの満足がいく評価には至っていない。現在の取り組みを継続していく必要がある。 ・タブレットを使用した学習機会が増えるに従って、文字を書くことに抵抗感がある生徒が授業に参加しやすい状況ができつつある。ICT機器を活用することで「誰にとってもかわりやすい授業」づくりを継続して意識していく。 ・支援が必要となる生徒への手立てが増え、通級指導や学習指導員による放課後学習や個別学習が増加することにより、今までよりもより手厚い支援が可能となった。今まで支援が行き届かなかった生徒の発掘と焦点化を図り、支援の範囲を拡大する意識を継続していく。	・個々を大切にし、一人も取り残さない取組をお願いします。そのために教員の共通理解は必須。 ・一方で小学校と同じようにサポートするのが難しい面もある。社会につなげていくための情報共有と自立が課題となってくるのでは？
	読書活動の充実	・図書館を活用し、朝読書を活性化させて、読書活動を推進し、活字に慣れ、読解力を養う。 ・新型コロナウィルス感染症対策を取りつつ、できる限り図書館活動を維持する。 ・本とICT機器とのバランスの良い活用を模索する。	・図書館司書・スクールサポートスタッフ・図書ボランティアと連携し、開館や図書館便り、選書、イベントなど、生徒の図書館利用がより活性化する手立てを取る。 ・委員会活動を活性化し、生徒自身の力による図書館活動を推進する。 ・授業で図書館を活用する。	・アンケート結果において「A」「B」評価の割合８５%以上を維持したい。 ・1ヶ月の平均読書冊数1人当たり3冊、平均貸出冊数1人当たり2冊を目標とする。	A	・教員のアンケート結果が94%、保護者は結果が92%と昨年度より伸びたが、生徒の結果は82%にとどまった。1月時点で月平均貸出冊数が1.9冊、読書量調査の平均読書冊数が5.3冊と、取り組みの成果は一定出ているにもかかわらず、生徒達自身に「学校が読書に力を入れている」という実感がない。朝読書の定着により、現在の取り組みが「当たり前」だと感じ、逆に重点的に取り組んでいるという意識がないことが考えられる。 ・また、生徒アンケートで、「とてもそう思う」の割合が減っているということは、読書好きな生徒が物足りなさを感じていることや、コロナ禍で委員会活動が以前よりできていないことが影響していると考えられる。図書館をよく利用する生徒が限定されがちなことも、生徒全体の意識の低下につながっている可能性がある。	・「学校が力を入れている」ことを生徒に意識してもらうために、朝読書等、全教師で声をかけて取り組むようにする。 ・より多くの生徒が図書館に親しめるようなイベントや取り組みを計画し実施する。	・朝読書の取組は、1日のスタートを落ち着いて切れるので継続してほしい。 ・ふとしたきっかけで本が好きになることもあるので、いかに利用しやすい図書館のシステムをつくるかが課題だと思う。 ・ICTの活用で、授業での図書館の利用が減っているのではないか？昼休み以外も利用できるなど工夫の余地はあるのではないか。

豊かな心・健やかな体（生徒指導部）	生徒指導の充実	・生徒指導共通理解事項や笹ナビに基づき、教職員が連携して組織的な対応を行う。 ･いじめ防止などのための基本方針に基づき、保護者や関係機関との連携のもと、適正な対応を行う。 ・生徒自ら正しい判断をし、よりよい学校を創り上げていくための、自治の力を育てる。	・学校の教育方針や指導方針、いじめ基本方針などを教職員が熟知し、深く理解した上で、あらゆる機会を活用して、保護者をはじめ関係者にわかりやすく説明できるように、組織の一員としての自覚をもって職務に当たる。 ・学校のルールを、生徒会、PTA、地域と連携して見直したり、あるいは新たに作ったりするなどの活動を継続する。 ・令和3年度見直した校則の実施にあたり、生徒が自主的に考える力を育む。	・アンケート結果において、「A」「B」評価の割合が90%以上になる。保護者と生徒両方のアンケートにおいてこれを達成したい。 ・不登校生徒数を令和3年度より減少を目指す。 ・全学級がQ-Uにおける学級満足度50%以上を目指す。	B	・生徒アンケートにおいて、いじめやトラブルへの対応については93.4%（令和2年度は91.9%）と上がっており、高い評価を得ている。保護者のアンケートでは同じ項目において、90.3%（令和2年度は89.0%）となっており、上がっている。組織として迅速かつ丁寧に対応をしてきたことが成果に繋がっていると考えられる。 ・職員アンケートにおいて、問題行動等に対して組織的に対応できる体制が整っているという項目に関しては、100%（令和2年度は67%）と大幅に向上している。継続的に組織として体制の整備を図っていく必要性がある。 ・不登校生徒数については、昨年同時期より増加傾向にある。 ・Q-Uについては、学級満足度50%以下の学級があった。	・予測不能な社会の変化に適応し、多様化する生徒の状況に合わせた指導の在り方を常に考え、システムを構築していく。 ・学年だけでなく、学校全体として報告、連絡、相談の徹底を図る。また、保護者へのきめ細やかな連絡を徹底する。 ・生徒会の活性化を図り、生徒の自主性を高める行事や授業づくりを個々の教員が意識する。 ・クラスの生徒の状況を的確に把握し、支援の必要な生徒には個別に対応するとともに、ルールとリレーションのバランスの取れた居心地のよい、まとまりのあるクラスづくりに努める。 ・定期的に生徒会・PTA・地域と校則等に関して情報交換し、課題を考える機会を設定する。	・QUで満足度50%以下があるのは気になります。 ・よりよい学校を創りあげるために「自治の力」を育てるのはすばらしい。また、そのために定期的に課題を考える場が設定されるのもすばらしい。 ・心理的不安、コロナ不安など増加傾向にある不登校生徒への初期対応と居心地のよい安心できるクラスづくりをお願いしたい。 ・そのためにも家庭（保護者）との連携、小学校との連携が欠かせない。生徒指導担当が小学校と定期的に情報共有していることはすばらしい。 ・進路指導については、先生方だけでは追いつかない状況かと思われる。一人ひとりに合った進路指導のためにも、1年生の時から生徒・保護者に具体的な情報提供をお願いしたい。（オンラインでもいいので） ・生徒指導の充実の自己評価がBとなっているが、自信を持ってAをつけてください。
	進路指導の充実	・生徒の将来を親身に考え、ひとりひとりに合った進路実現に向けた指導を行う。 ・正しい情報提供を図り、家庭との連携に努める。	・進路学習資料を活用し、自分の特性を見つめ、適切な進路を設計する力を養う。 ・トライやる・ウィークの取り組みを活用し、いろいろな職業があることを気づかせ、社会の一員になる意識付けを行う。 ・教育相談や三者懇談の時間などを生かして、生徒だけでなく保護者との対話時間も確保する。 ・1年生および2年生は毎学期、定期的に進路学習を行い将来への見通しと進路に向けての意識付けを行い、希望を持たせる取り組みをする。	・アンケート結果において、「A」「B」評価の割合80%以上を維持する。特に生徒・保護者アンケートにおいては「A」「B」評価が90%を超えており、本年度もこれを維持したい。	A	・進路指導の項目については、生徒のアンケートでは96.9%（前年度92.4%）だったが、保護者アンケートでは85.9%（前年度81.5%）と、生徒との意識の開きがある。これは、コロナ禍の中で2年3学期と3年1学期の進路説明会が開催できなかったことが、おもな原因と思われる。そのような中でも85.9%を確保できたことは、日頃の取り組みから問題意識を共有し、取り組むことができたと考えている。 ・しかし、双方向の意思疎通ができたかというと、不十分であったことは否めない。そのため、三者懇談会や教育相談などの機会を生かして、個に応じた進路についての対話時間を引き続き確保していくことがより求められる。また、生徒だけでなく保護者にも進路情報を積極的に伝える努力や工夫を今後も行っていく必要性を感じた。	・感染症対策をしっかりおこなっていきながら従来通りの進路説明会を確保していくとともに、スクールタクトなどのICTを活用して、情報発信していく。 ・新生活様式の中で進路情報も刻々と変化していっている。進路情報を家庭まで確実に届けるためにプリントに保護者サイン欄をつくるなどの工夫を今後も継続していく。 ・学校における進路の取り組み内容や関連する活動を計画的に推進するとともに、保護者にも進路通信などを活用し、引き続き、積極的に情報を発信する意識を持って伝えていく。	
	健康な体づくり	・心の健康の保持増進のため、体力の向上を図る。 ・食育や健康指導を通して、心身ともに、健康な体づくりを行う。	・「自分の健康は自分で守る」という意識を高め、実行力を育むことを目指し、保体委員会をさらに活性化し、全校生徒に健康に関する情報を発信する機会を増やす。 ・病気や怪我の予防、食育など、健康増進に関する情報を掲示板や保健だよりなどで、引き続き広報する。 ・生徒への個別指導や保護者連絡をとりながら健康管理をすすめるなどの連携をとり、健康増進を目指した取り組みを推進する。 ・給食について、衛生面の指導、アレルギー対応を行う。 ･体力の向上につながる取り組みをする。 ・新型コロナウイルス感染症対策のためにマスクの着用、手洗い・うがいの徹底をさせる。	・アンケート結果において、「A」「B」評価の割合が85%以上になる。 ・保健だよりを定期的に発行する。 ・給食掲示を季節ごとに更新し、毎日の献立を掲示する。	B	・アンケート結果では、全ての項目で90%を超えた。 ・教員対するアンケートでは、最も肯定的な意見の項目が前年に比べ半分以下となった。 ・保健や家庭科の授業を通して、病気の予防や健康な体づくりなどの健康増進について生徒に啓発した。また、掲示板や保健だよりを通して、定期的に健康に関する情報を発信した。 ・保体委員会や給食委員では、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、特に感染症対策について重点的に取り組んだ。 ・安心安全な給食実施に向けて、個人のアレルギー対応プランを作成し、家庭と連携しながら、毎月のアレルギー対応を確認した。衛生面での指導の徹底や備品の充実について、今後も継続して進める。 ・残食はほぼゼロで給食を食べており、毎日の献立を掲示することで給食に対する意識が高まった。 ・昼休みに換気を促す放送を行い、全校一斉に換気を行うことができている。 ・校内の体力調査では、昨年度の校内の記録と比較して、1・2年男女とも全種目1～2ポイント下がっている。	・授業を通して、健康に関する知識を習得するとともに、特に、スマホを使う時間や朝食を食べることなど、生活習慣について、学校と家庭が連携して健康管理について取り組みを行う。 ・自身の健康意識を高め、生徒の主体的な実行力を育てるため、委員会活動を活性化させる。 ・引き続き、掲示板、保健だよりなどを活用して、病気やけがの予防をはじめとする健康に関する情報を発信する。 ・学校給食を活用した食育に積極的に取り組む。 ・授業や部活動を通して、運動に取り組み、体力の向上につなげる。	・日々のコロナ感染対策に頭が下がります。思い切り声を出したり笑ったりできない今、心のビタミン不足になっているようで心配です。そのため、「心の健康」ケアはとても大切です。保護者との連携を密にとって、学習とともに「健康管理」もお願いします。 ・体力についても、小中連携を図り、数値による改善策を共有することが大切だと感じる。小学校では、柔軟性と体幹が課題であった。

開かれ信頼される学校（管理部・渉外部）	開かれた信頼される学校づくり（地域との連携）	・教職員の共通理解のもと、学校の教育方針や教育活動の周知徹底を図り、保護者や生徒の理解を深め、保護者や関係機関との連携のもと、組織的な対応を行う。 ・オープンスクールや参観日、行事などの機会を活用し、広く学校の教育活動を公開する。 ・コロナ禍において、感染症対策を徹底しつつ地域行事への積極的な参加を図るとともに、教職員と生徒、地域ボランティア等との連携により、可能な限りボランティア活動を推進する。	・学校の教育方針等を教職員が熟知し保護者をはじめ関係者にわかりやすく説明できるよう、組織の一員としての自覚をもって職務にあたる。 ・学校から各家庭への配布物が確実に届き、情報が十分に伝わるよう、終礼で配布物の確認を行う。また、クリアファイルやクリップなどを活用し、生徒がその日のうちに保護者へ渡す習慣の徹底を図る。 ・メール配信やホームページの更新等、情報発信のデジタル化に努める。 ・個人情報に留意し、各種行事や講演会、部活動など学校の様子が具体的にわかるようホームページの更新を毎日行う。 ・学期に1回オープンスクールを実施し、授業参観とあわせて保護者や地域の方々がより参加しやすい講演会や説明会などを企画する。 ・PTAや学校運営校議会を中心に学校支援ボランティアへの参加を促し、保護者や地域の方々との連携をすすめる。 ・生徒会を中心として、地域ボランティアの活性化を図る。	・生徒のアンケートにおいて地域活動に参加したいという項目の「A」「B」評価の割合が、70%以上になる。 ・ホームページの週5回以上の更新および学校だよりのデジタル配信を行う。 ・学期に1回オープンスクールを実施する。 ・学校の掲示物を随時更新する。 ・生徒のボランティア参加回数に応じて認定書を発行し、参加の意欲を持たせる。	A	・行事等の案内について、コロナ禍の状況に応じて配布した。 ・新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、オープンスクール、講演会、地域のまつりやもちつき大会、校区内の幼稚園や小学校の行事への協力などの参加ができなかった。 ・生徒の質問項目「地域の行事に参加したい」が74. 9%であったことから、行事の実施が可能になれば多くの生徒の参加が期待できる。 ・保護者による学校支援ボランティア（図書、園芸、土曜学習）の活動が定着し、内容も充実している。 ・学校運営協議会の議事を教職員に周知し、改善につなげることができた。 ・学校だよりや学年通信等についてデジタル配信に変更し、発行・配布を行った。その際、生徒や保護者の感想、写真等を多く掲載するなど工夫した。 ・CSディレクターの配置により、ほぼ毎日、ホームページの更新するとともに内容の充実を図ることができた。	・学校だよりや学年通信で学校のことがよくわかるという生徒の割合が94.3%で、昨年度（94.6%）に続き90%を超えているので、今後も継続していきたい。 ・学校の教育方針等を教職員が熟知し、引き続きあらゆる機会を活用して、保護者や関係者にわかりやすく説明していく。 ・地域へのボランティア活動を引き続き推進する。 ・生徒会を中心に参加型地域学習などを企画する（笹フェスの継続等）。 ・教職員の負担軽減のため、地域からの依頼事項を精選、合理化する。 ・個人情報に留意し、各種行事や講演会、部活動など、学校の様子がより具体的にわかるよう随時ホームページの更新と啓発に努める。 ・学校運営協議会委員やCSディレクターと連携しホームページやコミュニティスクールだより等を活用して、学校の情報を地域や保護者へ積極的に発信するとともに、コロナ禍における参加方法を研究・協議する。 ・ボランティアマスターの認定を継続する。 ・ICTをさらに利活用し、学校教育活動のPR方法を検討する。	・地域での取組に参加できていないのは残念だが、小学校の土曜学習での〇付けや補助、幼稚園の運動会に参加する姿を観て、すばらしいと感じた。 ・終息は難しいが、地域もwithコロナで、できる方法を考える時だと感じた。 ・学校からの配布物が確実に保護者に届かないと、情報が十分伝わらない。生徒一人ひとりが保護者へ渡すことの徹底を望みます。家庭でも配布物の置き場所を決めるなどが必要。 ・ホームページで、もっとコミュニティスクールをPRしてほしい。
	教育環境の整備	・清掃活動を活性化し、教育環境を整える。 ・安全点検を徹底し、安全・安心な学校づくりを進める。	・美化委員を中心として清掃用具の整備を行う。 ・安全点検を実施するための時間を確保する。 ・「もくもく清掃」に取り組む。 ・学校環境をきれいな状態に保つ。 ・委員会の強化月間において、クラスの清掃を見直す期間を設ける。	・アンケート結果すべての項目において、「A」「B」評価の割合が85%以上になるよう維持する。 ・月１回、清掃用具の破損や不足を点検する。	A	・生徒達が綺麗に施設や用具を使用する意識が高まり、アンケートでも生徒・保護者ともに、90%以上が良い評価をつけた。 ・「もくもく清掃(無言清掃)」が定着し、静かに集中して行うことができている。 ・安全点検の声かけは職朝連絡等で確実に行われ、行事予定表にも記載している。 ・月１回の専門委員会後、清掃用具箱の中の掃除用具チェックを着実に行っている。 ・美化委員で朝の掃除や落ち葉拾いを行った。また、今年度は中止になったトライやるウィークの代替として、公園の落ち葉拾いなどを行った。その活動が評価されたのか、教師の評価が大きく上がった。 ・「もくもく清掃(無言清掃)」が新入生にも定着し、文化となっている。	・美化委員を中心として、月１回の掃除用具の点検と整備活動を行う。 ・月１回の安全点検を呼びかけ、教員の点検漏れがないかを分かりやすくするために、紙でのチェックからデータ入力へと変更したので、係りから各学年への遅かったデータ入力の声かけをこれからも徹底する。 ・「もくもく清掃(無言清掃)」時に喋ってしまう生徒が全くいないというわけではないため、生徒への注意を美化委員にさせる。見回り、チェックシートにもくもく清掃の状況を記入し、終礼で発表する。 ・朝の清掃活動や落ち葉拾いはボランティアや部活動と連携してする。	・環境美化の意識が高まれば、集中して清掃が行われる上、安全で快適な環境は心の安定につながる。ぜひ、今後も良い評価を保ってほしい。

学校関係者評価総括

〇生徒・保護者ともに全体として評価が上がっている。コロナ禍での先生方の努力に敬意を表します。今後もこの評価を落とさないように取組の継続・充実を望みます。
〇コロナ禍も2年目となり、生徒・教員含め様々な工夫の跡が見られます。

次年度に向けた重点的な改善点

〇コロナ禍であっても、中学生でしか味わえない体験や想い出をつくれるよう工夫の継続をお願いします（充実した3年間を過ごさせたい）
〇授業力向上・授業改善（「めあて」と「振り返り」の質の充実）　〇学校行事の工夫　〇学校文化としての「笹トレ」の深化・発展　〇不登校対応
〇連携（校種間の連携：小中連携、地域との連携）